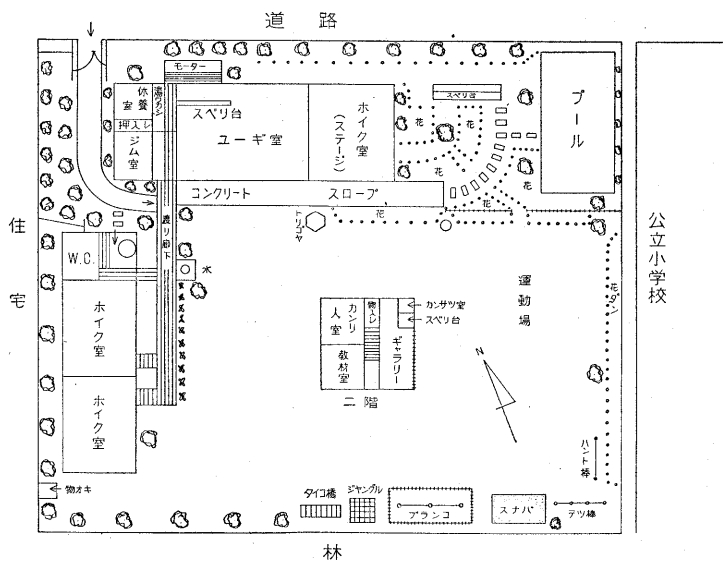


施設と子ども

大泉テイ子

このあたりは、武蔵野の名残りを、麦畑や松の木立に今もなおとどめている、静かな住宅街であります。すぐ近くには井の頭公園、動物園を控え、東隣りは武蔵野市の公立小学校、南側は一面の雑木林、北は広々とした麦畠、更にその北を東西に通っている水道道路は、車馬通行禁止の安全な道路になっています。このように比較的恵まれた環境の中に、敷地五〇〇坪、園舎一〇六坪のこじんまりとした幼稚園が、私たちの幼稚園でございませう。今年で創立五年めを迎えました。



泉幼稚園平面図

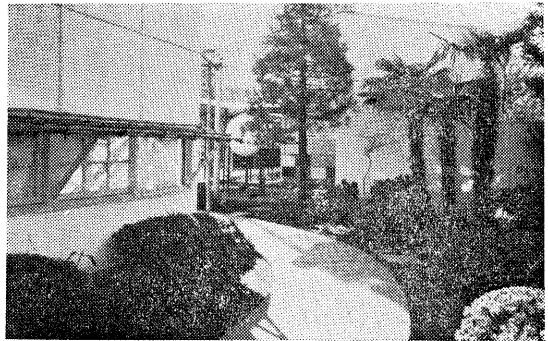
設立当時は、敷地二七〇坪の南北に長い地形でしたので、園舎の配置も西に偏っております。

その後、東に拡張した所は、運動場、花壇、芝生、プールとに分けました。園舎の割合に花壇が広いので、花の季節には花に埋れて遊ぶことが出来るのが何よりの楽しみでございませう。運動場もどうやら運動会をここで楽しめる程度の広さでございませう。最初からの願いが、園児も、親も、先生も、共に楽しめる幼稚園でありたい、とゆうのが第一の願いでしたから、建物は親しみ深い感じのもの、威圧感を与えない明るい感じのものにしたいと希望して設計していただきました。設計者は武蔵工業大学の笹原貞彦氏です。

(1) 入口と渡り廊下

いわゆる「たのもう」「どうれ」式の玄関はありません。二棟に分かれている建物を連絡する渡り廊下が入り口になっていきます。ここに立つと園庭が一目に見渡せます。また、雑木林の四季の色の遷り変りが十分に眺められ、また野鳥の鳴声もよくき

門のあたりから入口をみる

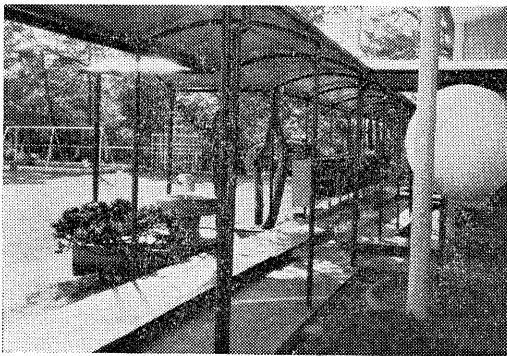


かれるところですよ。ただし、激しい風雨の折には、吹きさらしの廊下は船の甲板に立っているような水しぶきを受けるところです。屋根は鉄板、柱は鉄のパイプです。このパイプは、はん登棒も兼ねて人気があります。入口の白い球は泉を造型化したものです。白色モルタル仕上げになっています。

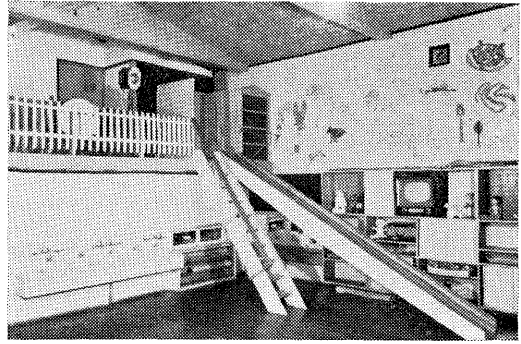
その下の池には金魚を飼っています。

(2) ゆうぎ室、保育室

遊び室は二十四坪、北側に造りつけの棚をつくって、ゆうぎ室内で必要な遊具を入れました。中二階はギャラリイになっています。映写の時、便利ですし、催しのある時には適当に二階席にもなります。中二階よ



渡り廊下から南側をみる



屋内すべり台 中二階からゆうぎ室へ

りすべり台を一つ流しました。このすべり台はとりはづしの出来るものです。ゆうぎ室の東側にある保育室は舞台を兼ねています。他の保育室にくらべて、照明器具、カーテン、レールなどがあってうるさい感じがいたしますが、この保育室の下は縁が高いので物置に重宝して使っています。ゆうぎ室と保育室の境は六枚戸で仕切っており

ます。保育室と同じ高さにゆうぎ室の方に約二尺程のステージをつくりました。日頃何かと便利に使っています。保育室は十二坪、ロッカー、抽出しなどがあります。机は六角形、四角形、三角形のものを時に応じ適当に組合わせて使っています。

(3) 手洗い

女子の手洗いの上を空けて万一の場合におとながのぞけるようにしました。下部の隙間は掃除の洗い水を流しやすくするためです。戸は色別にして、明かるい感じにしました。

(4) 屋外

ゆうぎ室前のコンクリートを隣りの保育室までスロープでつなぎ、そのまま、花壇の中に延長させました。ここは土足厳禁のところですが、スロープの終りから芝生の中を、飛石づたいに屋外の滑り台にゆくようになっています。滑り台は二台つづきのた

め、ぐるぐる廻って遊びます。もう一つの飛石をつたってプールへ。夏中楽しんでプールは、暖かい日射しを受けて、ちょうどよいままごとの場になっています。

花壇と運動場を小さな柵で仕切っており、同じ調子の柵をばらんこの回りにつけました。林の中に切株を利用してまごとのテーブルと椅子をつくりました。時には箱車の停留所にもなっているようです。朝、雨降り以外には全員でたつぶり5分間運動場を駆け廻ります。子どもたちは馳足の時の先頭になるのが何より楽しみにしているようです。柵の外の雑木林は自然観察の教材を豊富に提供してくれま

こう書きならべてみますと、この幼稚園でよいと思う点を無理にお答えしなければならぬとすれば、美しい自然の恵みと、自由に駆け廻ることの出来る運動場のよう

（東京都武蔵野市・泉幼稚園）